

野に咲く花の歴史

- ・番号は裏面の写真番号
- ・時代の色は花の色

【農耕文化とともに日本に入ってきたと考えられている植物】

草花が初めて掲載されている時代と文献

- | | | |
|-------------|------|-------------------------|
| ②0 ススキ | 奈良時代 | 古事記(712)に「一本薄」と掲載 |
| ②1 ヨシ(アシ) | 奈良時代 | 古事記(712)に「葦牙」と掲載 |
| ②2 クズ | 奈良時代 | 日本書紀(720)に和名「久須乃祢」と掲載 |
| ②ヘクソカズラ | 奈良時代 | 万葉集に「クソカヅラ(屎葛)」として登場 |
| ①6 エゴマ | 奈良時代 | 東大寺正倉院文書(729~)に掲載 |
| ①0 ヒヨドリジョウゴ | 鎌倉中期 | 名語記(1275)に「ひえとり上戸」として登場 |
| ⑨ イヌホオズキ | 江戸中期 | 大和本草(1709)に掲載 |
| ①9 アキノノゲシ | 江戸末期 | 物品識名(1809)に掲載 |

【江戸時代以前に日本に入ってきたと考えられる植物】

草花が初めて掲載されている時代と文献

- | | | |
|-------------|------|------------------------|
| ⑦ ゲンノショウコ | 平安初期 | 本草和名に「牛扁」和名「太知未知久佐」と掲載 |
| ①5 ハッカ | 室町中期 | 撮壤集(1454)に「はか」として登場 |
| ⑥ ミズヒキ | 江戸初期 | 草木花写生(探幽)(1661-74)に掲載 |
| ⑤ ミゾソバ | 江戸中期 | 大和本草(1709)に掲載 |
| ① ママコノシリヌグイ | 江戸中期 | 諸国産物帳(1735-40)に掲載 |
| ⑧ ヤブマメ | 江戸末期 | 物品識名(1809)に掲載 |

【開国後に日本に入ってきたと考えられている植物】

草花が確認された時代と場所

- | | | |
|---------------|------|-----------------------|
| ①① コセンダングサ | 江戸末期 | 江戸時代(詳細年は不明)に渡来 |
| ①⑧ セイタカアワダチソウ | 明治末期 | 明治33年(1900)頃に観賞用として移入 |
| ③ ハキダメギク | 大正時代 | 大正9年(1920)頃に東京世田谷で確認 |
| ①② アメリカセンダングサ | 大正時代 | 大正9年(1920)頃に琵琶湖畔で確認 |
| ④ アレチヌスビトハギ | 昭和初期 | 昭和15年(1940)頃に大阪で確認 |

<参考文献・情報> 野に咲く花(山と溪谷社)、野草の名前春・夏・秋冬(山と溪谷社)、侵入生物データベース(独立法人国立環境研究所)、資料別・草木名初見リスト(慶応義塾大学日吉紀要・自然科学) No.45、植物雑学事典(岡山理科大学)、本草和名(現代思潮新社)

【東京港野鳥公園ホームページ https://www.tptc.co.jp/park/03_08】

【東京港野鳥公園ボランティアガイドブログ <http://tokyokovg.seesaa.net/>】で
今観察できる野鳥、昆虫、植物の最新情報をいち早くお届けしています。ぜひご覧ください。

いにしえ

足元に古と季節を感じる!! 野に咲く花だより【秋号】

10月中旬ごろに咲いている野の花や実の写真・公園内の代表的な場所・
名前の由来・歴史を紹介してあります。観察の参考にしてお楽しみください。

一度聞いたら忘れない名前の花

園内は植物採取禁止です。
ご協力をお願いします



- ① ママコノシリヌグイ ● ←花の色
特徴：葉や茎に下向きのとげ
由来：とげで継子の尻を拭いていじめるという恐ろしい名前



- ② ヘクソカズラ ○
長さ：約10mm
特徴：花の中央がお灸の後に似ている(別名：ヤイトバナ)
由来：花、実、葉をもむと悪臭がある



- ③ ハキダメギク ○
直径：約5mm
特徴：先が3裂する花びら5枚
由来：東京世田谷のはきだめで見つかった(牧野富太郎の命名)



- ④ アレチヌスビトハギ ●
長さ：7-8mm
特徴：果実はスポンのあちこちに付く
由来：盗人の忍び足の足跡に似ている(在来種ヌスビトハギ)



- ⑤ ミゾソバ(ウシノヒタイ) ●
特徴：小さな花が集まって金平糖のよう
由来：花や姿が食用のソバに似ているから
葉の形が牛の額に似ているから



- ⑥ ミズヒキ ●
直径：約3mm
特徴：上から見ると赤、下から見ると白
由来：花が紅白の紙ひも「水引」に似ているから

実や種も特徴的



田んぼ奥

⑦ゲンショウコ ●●○

花：直径10-15mm、白色と紅色の2種
 実：おみこしの屋根に似ている(別名:御輿草)
 由来：下痢などの対する薬効が必ず現われる薬草で「現の証拠」



NC 横入口そば

⑨イヌホオズキ ○

花：直径6-7mm。5裂して反り返る
 実：直径7-10mmで黒色に熟す
 由来：ホオズキやナスに似ているが役に立たないこと



公園各所

⑪コセンダングサ ●

花：筒状の花が集まっている
 実：細い線形で先端に2-4個のトゲ。花火のように丸く広がっている
 由来：センダングサに葉が似ているから

写真内に生えている代表的な場所を記載しましたが、季節の変化や草刈りなどで観察できない場合があることをご理解ください



東淡水池そば

ひょうたん島そば

⑧ヤブマメ ●

花：長さ15-20mm。葉はひし形
 実：長さ25-30mmの豆果。種子は3-5個
 由来：草藪につるがからんで花や実(豆)が目につく



田んぼと
4号観察小屋の間

⑩ヒヨドリジョウゴ ○

花：4-6mm。花冠は5裂して反り返る
 実：果実は球形で赤く熟す。有毒。
 由来：赤い実をヒヨドリが食べることを想像して



公園各所

⑫アメリカセンダングサ ●

花：筒状の花を支えている放射状に広がる総苞片が目立つ
 実：幅広い線形で先端に2個のトゲ
 由来：センダングサに葉が似ているから

いい香りの花・葉



ひょうたん島
(3号観察小屋寄りの湿地)

⑮ハッカ ○

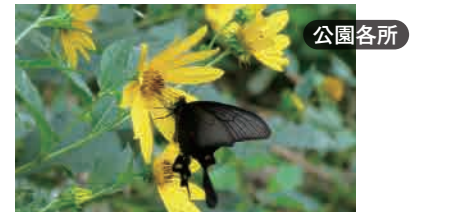
香り：メントールを含みさわやかな香り
 由来：古くから文献に出ているがはっきりしない



自然生態園
林の道沿い

⑯エゴマ ○

香り：シソと異なりゴマ油に近い香り
 由来：古くは「荏」。実が胡麻に似ていることから荏胡麻が和名に



公園各所

⑰イヌキクイモ ●

香り：チョコレートのような甘い香り
 由来：キクイモに似ているが、地中のイモが小さく食べられない



公園各所

⑱セイタカアワダチソウ ●

香り：スッキリした菊の花の香り
 由来：草丈が高く、黄色い小さな花が泡立つように見える

草丈の高さが目立つ



ひょうたん島

ミニ生態園

⑲アキノノゲシ ●

特徴：高さ60-200cm。淡黄色の花が多数つく
 由来：葉がケシの仲間に似ていて秋咲き(本種はキク科です)

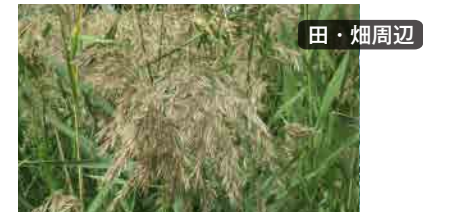


田・畑周辺

いそしぎ橋

⑳ススキ ●

特徴：高さ1~2mの大きな株をつくる
 由来：諸説あり。奈良時代には「すすき」「尾花」「かや」と呼ばれていた



田・畑周辺

㉑ヨシ(別名アシ) ●

特徴：高さ1.5~3mの大群落をつくる
 由来：緑色の群生から「青し」アシに転じた。「悪し」に通じるので「ヨシ」が一般化



公園各所

㉒クズ ●

特徴：茎はツル性。こんもり山を作る
 由来：大和国国栖(くず)が古くから産地であった